“教員の心に を付
OJT News No. 9
平成29年度
広島市教育センター

意識変革につなげる伝え方の工夫

倉掛小学校編

今年度のOJT Newsでは，［OJT News No.1］で示した「OJT実践上の課題」の５つの視点に対応した実践を紹介しています。今号で紹介する学校は，①「時間の確保」④「参加意欲・主体的な学び」の２項目に対応した実践を行っている倉掛小学校です。

５つの視点	
○	①時間の確保
	②計画的な取組
	③研修指導者の確保
○	④参加意欲・主体的な学び
	⑤組織的な取組・組織づくり

本校は，各学年１～２クラスの学校で，職員が少なく，一人一人の業務量が多い実態があります。そのため，若手教員の力量の向上が図られるよう授業や学級経営の良いところを参観する等の機会の設定が難しいという課題がありました。そこで若手教員に，学級経営や授業改善の見通しをもたせ，意欲的に取り組むことができるよう，次の２点について工夫をしています。

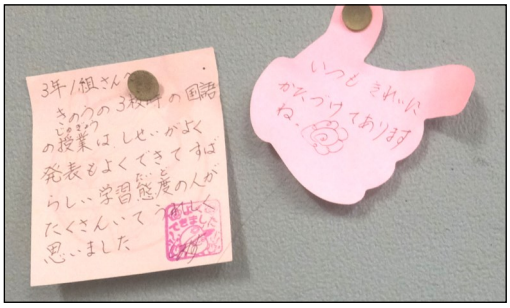
１　「校長だより」の発行による情報発信

「校長だより」は週に１回程度発行し，授業改善に向けた視点だけでなく，地域連携における取組等，学校の取組も伝えています。また，週２回実施する暮会を活用して，ミニ研修の資料にもしています。継続的に無理なく実施することで若手教員が見通しをもって実践できるようになってきました。

２　付箋を用いた肯定的評価

管理職（校長，教頭）が授業観察を行う際に，児童の学習態度や学級の様子等，授業で見取った子どもの成長を評価し，その場で付箋に記入して教員に渡しています。そのことを通して教員のモチベーションが向上するだけでなく，評価してもらったことで児童のモチベーションの向上にもつながっています。

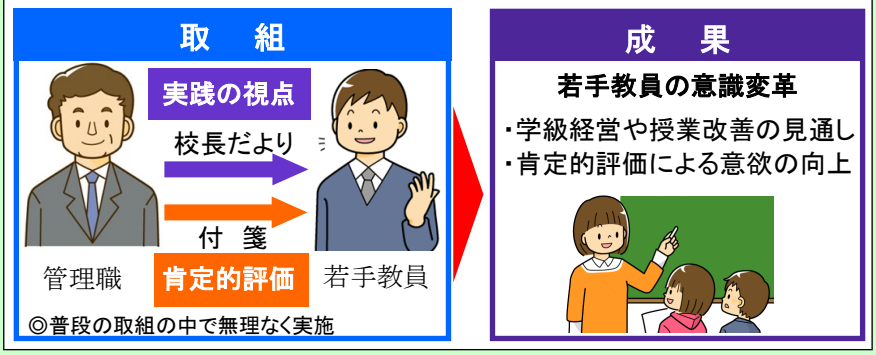
各クラスでは，お互いを認め合う学級づくりの取組として付箋の活用が広がっており，児童を「ほめる」「認める」ことの大切さを改めて理解する機会となっています。



児童のがんばりや良さを評価した付箋

児童同士のいいこと見つけの活動へ

実践の見通しをもたせ肯定的に評価する取組



【校長のコメント】

学校現場では，経験の浅い教員がこれからもますます増え続ける状況にあると思います。

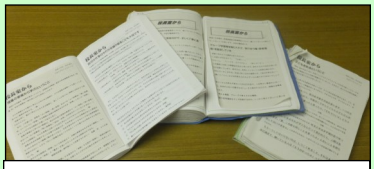
しかし，本校のように小規模の学校であると短い時間での力量向上の工夫が必要となります。そのためには，まず，校長自身が，時間を上手にマネジメントすることが大切であると考えます。そして，若手教員のやる気に結びつける取組を模索，工夫して実践をしていきたいと思います。

【若手教員A】

初めて学校に勤め，右も左もわからない状況でした。校長先生から出される「校長だより」のおかげで授業づくりの視点や学級づくりの視点を得ることができ，取組の見通しをもつことができました。児童は，校長先生が付箋を残されているのを見つけるととても喜んでいます。

【若手教員B】

「校長だより」は自分で気づけないことを気づかせてもらえるだけでなく，校長先生のお考えや学校の取組を知る機会になりました。同じベクトルで他の先生と連携し取組を進めることができ自身の意識も変わったように思います。見取ったその場で付箋を使って，ほめていただくことで児童だけでなく私自身のモチベーションも向上しました。



「校長だより」をファイル

授業に関すること，学級経営に関すること等内容ごとに分けて整理し，いつでも見直すことができるようにしています。